

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572200170		
法人名	有限会社日豊福祉サービス		
事業所名	グループホーム高千穂	ユニット名	1F
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井3258-2		
自己評価作成日	平成24年10月8日	評価結果市町村受理日	平成24年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4572200170-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スプリンクラーの設置と深夜2名の勤務態勢の開始、防災避難訓練の定期的な実施で、入居者第一の安心と安全の確保、栄養管理と味付けに考慮した美味い食事の提供、ホームページでの情報公開、周囲には緑が多く、四季折々の変化が見られる静かな環境に恵まれ、職員の人間関係も良好で入居者一人ひとりに寄り添った介護に心がけている。また、すぐ近くに夜間救急対応の町立病院があり、医療面での支援が即、受けられる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、利用者の安全・安心をより高める設備の改善や避難防災訓練を積極的に行っている。また、広い敷地を利用しての「このほり運動会」や「ふるさと巡り」など、利用者の笑顔を引き出すための工夫に、ホームと全職員とで取り組んでいる。食事の前に適度な体操や口・のどのトレーニングをすることで、食事をより楽しめるような工夫なども見られた。地域や家族、医療機関との連携にも力を入れている。そうしたホーム全体によるさまざまな努力が、利用者の穏やかな態度、明るい笑顔、そして職員の行動にも表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の基本理念を掲げ、スローガンを合い言葉に、利用者に対するひとつひとつのケア実施の際、全職員理念の実践を心がけている。	ホームで作成した理念を職員全員で共有し、利用者のペースを大切にケアをしている。事業運営に関して、「利用者・家族、従業員、地域・取引業者」3者との信頼重視を掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接した場所に集落が少ないこともあり、日々の暮らしの中で、地域の方々との日常的な交流がまだまだ不足している。現時点では、歌や踊りの慰問、中学生の体験学習などで交流を図っている。	地域の行事、例えば道路環境整備に積極的に参加したり、ホームでのイベントに地域の方々に参加を呼びかける姿勢を持っている。隣接の農業改良普及センターとも交流し、避難訓練等の協力も得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活動内容をホームページに載せるとともに、定期的にホーム便りを発行することで、理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに実施し、活動報告を行い、意見や感想を聞く中で、今後の向上に生かしている。	運営推進会議では、参加者の顔ぶれも多彩で、会議はオープンである。委員と利用者のふれあい食事会も行っている。話し合いは活発であり、意見や感想をサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より相談、助言を密にできる関係にあり、状況を報告するとともに、協力をお願いしている。	行政の職員を講師に講演会を開いたり、ふくし祭について意見交換をしたり、協力関係は密である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊のある方、歩行困難者の危険防止事故防止のため、その時々により、やむを得ず施錠する場合は家族に事情を説明し、納得して頂いている。また、言葉の拘束をしないよう、声かけの工夫に配慮している。	徘徊いのある方がいたときには、やむをえず玄関施錠をしたこともあるが、「どうすればホームを自分の居場所と思ってもらうか」など、全員で考え工夫をしてきている。また、言葉の拘束がないように、常に気配りしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や研修の場を通して、勉強の機会を設け、職員全員で周知徹底している。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの制度の違いや適用性、目的について、全体会議で勉強会を実施している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者や家族との面会の機会を設け、安心した雰囲気の中で、十分な説明を行っている。家族会を実施し、不安や疑問点が無いよう交流を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、できるだけ利用料を持参して頂き、面会を通して意見や要望を聞く機会を作り、信頼関係につなげている。		利用料を家族に持参してもらうことで、来訪の機会を設けている。利用者の趣味や得意なことを生かす工夫をしている。例えば、このほり運動会では、利用者の意向を受け入れたプログラムを作り、喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見を聞き、納得、理解できるまでの説明をし、改善、改革を行い、質の向上に努めている。		月に1度の運営者・管理者・職員全員での全体会で、職員の意見を直接運営者に述べる機会があり、ここでの意見を基に、夜勤2名制など、勤務体制の変更が行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、全職員会議を実施し、研修や勉強会を行ったり、勤務内容などに対する意見を聞き、全員で意見交換をしている。また、毎月代表者も出席している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議でテーマを作り、勉強会を実施している。また、関係機関の研修には、全員交代で参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設との交流会を持ち、お互いのスキルアップの検討会、情報交換を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安を取り除けるよう、小さな変化も見逃さず、さりげなく寄り添い、傾聴しながら、安心と信頼を深める支援をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望、不安に思うことを聞き取り、利用者への思いをしっかり受け止め、家族との信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りときめ細やかな観察を行い、声にならないサインを見逃さないよう、十分な気づきのケアを図っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、これまで経験されたことから学び、共感することで、お互いに支えて行く関係作りを築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の利用者に対する思いに則し、密に連絡を取ることで、絆を大切に、ともに支えていく関係作りを築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	折に触れ、懐かしい場所へのドライブ（ふるさと巡り）などで、支援に努めている。	利用者の好みの場所やふるさと巡りで、なじみのあるところへ出かけている。行きつけの美容院への送迎なども支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ドライブや散歩、テーブルや椅子の配置を工夫することで、利用者間の交流を深める支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院、退去後は、折に触れ電話連絡など、面談・面接を行い、家族とは出会う機会があった時に報告をしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り希望に添えるよう、職員間の連絡を図り、家族の意向も取り入れている。		意思表示のできる方には、寄り添いながら他人のいないところやお風呂などで、思いを聞き出している。困難な場合は、表情や態度、介助時のスムーズさなどから判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの環境や暮らしぶりを傾聴し、回想法などを用いて、それぞれの思いに近づける工夫をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面、メンタル面の双方を考慮しながら声かけを工夫し、残存能力を引き出し、充実した生活が送れるよう支援する。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思、希望に添い、家族の意向を十分に聞き取り、情報を共有しながら、QOLの向上を図り、見やすくわかりやすいケアプランを作成している。		介護計画は、家族の意向や担当職員、主任、計画作成担当者等の関係者で話し合いながら作成している。3か月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日報、介護カルテ、排泄確認表などの情報を共有し、日々の体調の変化に伴い、個別ケアのケース検討会を行い、実践している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	穏やかな生活ができるよう、ニーズに添った支援に努め、できる限り実現ができるよう、健康の維持管理など側面的な支援もしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1F	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		ボランティアの方々の歌や踊りの訪問、中学生の体験学習など、様々な形で支援している。また、地域の消防団の協力を得て、総合防災訓練なども実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		本人の希望や意見に添って、かかりつけ病院の医師に定期的に受診し、必要に応じて受診している。		ホームに入る前からの掛かりつけ医の方、近くの町立病院にかかる方、双方に受診する方もある。受診は主として職員が付き添っている。夜間の場合や予防接種などは、町立病院で行い、十分な受診支援をしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		介護カルテに日々の変化や気づきを記録し、朝夕ひき体調の変化に伴い、個別ケアのケース検討会を行い実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		日頃より、医療機関の受診などで相談、助言や協力を頂き、関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		重度化については研修を重ね、知識や技術を向上させ、介護力のアップを行い、メンタル面へも配慮し、ケアの充実を図っている。終末期のありかたについては、話し合い検討中。		終末期の経験を基に、協力医や運営者を含め、「ホームとしての終末期のありかた」を検討し、ホームの方針を構築するとともに、現在、契約時に口頭でなされている説明についても、文書化することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		職員会議の中で、急変時の対応や救急手当法の勉強会をしており、緊急マニュアルを作っている。すぐ近くに夜間救急対応のできる病院があり、医療面での迅速な対応ができる環境にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		消防団、地域住民の協力により、年1回の総合防災訓練と年3回の自主避難訓練、夜間避難訓練を実施している。また、緊急連絡体制とマニュアルがある。		消防団や地域住民との連携で、年1回は総合防災訓練をしている。自主避難訓練は、特に2階の利用者への配慮をしながら、夜間想定訓練も行っている。

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉によるプライバシーの侵害の場合は職員が個々の尊厳を守るよう、心がけて対応している。		認知症や疾患があっても、利用者を年長者・人生の先輩として敬い、一人ひとりが心地よい暮らしができるように努めている。個人の人格・尊厳を守るケアに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、個々の性格に添った、言葉かけ、声かけを工夫しながら、自己決定をしやすい支援を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、それぞれのペースにあった支援を心がけ、満足する日々の過ごし方ができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望に応じ、定期的に来荘依頼をして、散髪をしてしてもらい、リフレッシュを図っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ふれあい農園の新鮮野菜を収穫、季節感のある食材で、楽しい語らいの中で五感に働きかけ、楽しい語らいの中で食事し、食後の食器運びなどの支援を行っている。週1回はフリーメニューの日を設け、利用者の希望食を取り入れている。		週日の調理は、専任の栄養士が利用者の声を生かしながら行っている。日曜日は、フリーメニューということで、利用者の希望を取り入れて職員が作っている。食後は、利用者と共に片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニュー作成、嚥下状況に応じた調理を工夫するとともに、チェック表、食事量、水分量、排泄、体重などを把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保ち、技師の清掃の声かけ、見守り、仕上げ磨き、不具合は無いかな等を観察し、脳の活性化に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを観察しながら、定期的に声かけをして排泄ができるよう支援し、後始末ができない方やおむつ使用の方に対しては、その都度、陰部洗浄を施行、清潔保持と感染予防に心がけている。	排泄つパターンや態度を参考にしながら、タイミングを配慮して声かけし、できるだけ自分で快適に排泄できるように支援している。夜間、オムツ使用で体位変換を要する方の場合は、その時同時に確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状況をチェックし、水分量の把握、毎朝の乳酸菌飲料の提供、夜間覚醒時の水分補給を促すなどで、便秘改善の工夫を行っている。また、テレビ体操や歩行運動も実施している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望により、楽しめるよう心がけている。普段聞き取れない思いを、さりげない会話の中で聞き取り、心身共にリフレッシュして頂けるよう、声かけの工夫を行っている。	基本的には、週3回の入浴であるが、浴槽はいつでも使えるように準備している。ゆず湯や入浴剤で楽しめる工夫もしている。入浴時が、利用者の思いをゆっくり聞く機会でもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よくゆったりした気分で就寝できるよう、寝具の洗濯、布団干しなどを実施し、安眠に繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、薬の変更があった場合は、用法、用量、効能、注意事項を職員に周知徹底し、与薬前後も、それぞれの名前を確認することで、誤薬防止を行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれにあった声かけをすることで、活気、活力を引き出し、ALDの改善に繋げていく支援をしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やふるさと巡りなどのドライブなどで、近隣の人たちと会話をしたりして、気分転換を図り、お盆や正月、お彼岸など、家族の行事に合わせた外出支援を行っている。	月に2回はドライブをし、ふるさと巡りで遠くに出かける支援をしている。高千穂峡周辺を車で走るだけでも大きな気分転換になっている。ホームの敷地内で、「こいのぼり運動会」も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では、本人に金銭管理はお願いしてはならず、希望がある場合は家族に相談し許可を頂いた上で、職員が支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に対応している。個別に支援は続けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を玄関ホールなどに飾り、季節や行事にあった飾り付けを作り掲示している。また、自然の風や光を取り込み、心地よく過ごせる工夫、空調も使い、室温の調整も行っている。		トイレや廊下を含む共用空間は、車いすを使用しても、十分な広さが確保されている。自然の光や風で落ち着いた環境が整えられている。壁面には、利用者の作品、訪れた中学生の手紙、ホームでの行事の写真を飾るなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのの好みに応じ、和室と洋室がある。また、ホールにゆったりとくつろげるようソファやテーブルもあり、互いのコミュニケーションが図れるよう工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望を取り入れて、思い出の品や写真、家具など、居心地よく過ごせる工夫をしている。		簡素ではあるが、本人や家族にかかわる写真や家具が備えられ、居心地よく過ごせるように工夫されている。車いすが必要な利用者の部屋は、床の安全面に配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴槽など、わかりやすいよう木札で明記。居室も花の名前と本人の名前を掲示、それぞれのADLに合わせた居室の配置と安全な環境作りを行っている。			